

山梨の近現代 主な出来事



明治10年落成当時の山梨県庁



新笹子トンネル開通



アイオワ州と山梨県が姉妹県と書かれた飛行機



オリンピックの自転車競技ロードレースで県内を走る選手ら

明治

元年（1868） 官軍甲府入城、甲斐府を置く
2年（1869） 甲斐府を廃し甲府県とする
4年（1871） 甲府県を山梨県に改める
5年（1872） 大小切騒動が起こる
6年（1873） 大阪府参事藤村紫朗、山梨県権令となる（翌年県令となる）
10年（1877） 山梨県庁落成。第十国立銀行設立
13年（1880） 明治天皇巡幸
36年（1903） 中央線が甲府駅まで開通
44年（1911） 御料林を山梨県へ御下賜の御沙汰書。中央線新宿～名古屋間全線開通



恩賜記念の謝恩碑

大正

元年（1912） 県恩賜県有財産管理規則制定
9年（1920） 恩賜記念の謝恩碑が舞鶴公園に完成。第1回国勢調査、県人口58万3,453人

昭和

3年（1928） 富士身延鉄道（現在の身延線）全線開通。県議会議事堂完成
5年（1930） 県庁新庁舎（現在の別館）完成
6年（1931） 中央線甲府～新宿間電化
7年（1932） 富士山測候所開設
16年（1941） 身延線国有化
20年（1945） 甲府空襲、全市の74%が焦土と化す
25年（1950） 「山梨県の歌」決まる。第1回植樹祭を山梨県で開催
33年（1958） 国道20号に新笹子トンネル開通
35年（1960） アメリカ合衆国アイオワ州と姉妹締結
38年（1963） 県庁舎本館完成（内藤多仲ら設計）
39年（1964） 富士山有料道路（スバルライン）開通
44年（1969） 中央自動車道富士吉田線開通
45年（1970） 第1回信玄公祭り開催
53年（1978） 県立美術館開館
57年（1982） 中央自動車道全線開通
61年（1986） かいじ国体、ふれあいのかいじ大会開催



美術館の一般公開に訪れた県民たち

平成

元年（1989） リニア新実験線建設地が山梨に決定
8年（1996） 地方病の流行終息宣言
10年（1998） 雁坂トンネル開通
15年（2003） 「平成の大合併」県内第1号として、新・南部町誕生
17年（2005） 山梨県立大学開学
25年（2013） 「富士山」世界文化遺産登録
26年（2014） 豪雪災害の発生
27年（2015） 山梨近代人物館開館



開通した中部横断自動車道

令和

元年（2019） 山梨「ワイン県」宣言
2年（2020） 新型コロナウイルス感染症の世界的大流行
3年（2021） 東京2020オリンピック・パラリンピック開催
山梨県が初めてオリンピック競技の開催地となる。中部横断自動車道 山梨～静岡間全線開通
4年（2022） 「峡東地域の果樹システム」世界農業遺産登録
「無生野の大念仏」ユネスコ無形文化遺産登録
5年（2023） ベトナム社会主義共和国クアンビン省と姉妹締結
人口が43年ぶりに80万人割れ。「人口減少危機突破宣言」
6年（2024） 富士山の登山規制を実施

国際交流

■問い合わせ先 国際戦略グループ TEL 055-223-1435

山梨県は現在までに世界各地の6都市と姉妹・友好締結を行っています。姉妹・友好都市のほかに、令和6年度は、ネパールやベトナム・イエンバイ省、インド・ウッタル・プラデーシュ州、アメリカ・カリフォルニア州ラグナビーチ市と新たな交流に関する覚書を締結しました。

外国人と日本人が互いの文化や考え方の違いを認め合う共生社会の実現を目指すとともに、行政だけでなく、民間が主導する友好関係を築くことで、新たなビジネスの創出や観光による消費拡大などにつなげ、国際交流の恩恵を県民の皆さんに実感してもらえる海外都市交流を推進しています。

姉妹州 アメリカ合衆国 アイオワ州

1960(昭和35)年3月14日締結

本県が昭和34年の台風で甚大な被害を受けたとき、同州から見舞いとして農畜産物が贈られたことが姉妹締結の直接の契機となりました。都道府県が結ぶ姉妹関係としては、わが国での草分けです。近年は同州で行われているベーコンフェスティバルを本県でも開催するなど、食文化を通じた民間の交流も行われています。

■人口 324万人（2024年）
■面積 14万5千km²
■州都 デモイン市
■農業 トウモロコシ、大豆、豚、鶏卵、牛
■工業 機械、食品、化学、バイオテクノロジー



友好省 中華人民共和国 四川省

1985(昭和60)年6月18日締結

共に内陸部にあり、富士山、峨眉山等の名山を有するなど類似点が多く、民間レベルで活発に交流活動が行われていたことが契機となり、友好省省の締結を行いました。省都である成都市は、中国西南部地域の商業貿易・金融・化学技術の中心地でもあり、西部大開発の中心拠点都市として発展しています。

■人口 8,368万人（2023年）
■面積 48万6千km²
■省都 成都市
■農業 水稻、菜種、生糸、馬鈴しょ、養豚、茶、野菜
■工業 飲料、農産物加工、医薬品、IT、自動車



姉妹県 フランス共和国 ソーヌ・エ・ロアール県

2000(平成12)年4月7日締結

フランスを代表するワインの産地であるブルゴーニュ地方南部に位置し、ソーヌ川とロアール川がゆったりと流れ、なだらかに連なる丘と豊かな田園風景が印象的です。ワインと食を目的とした観光や、サイクルツーリズムが盛んです。

■人口 55万人（2022年）
■面積 8千6百km²
■県都 マコン市
■農業 ワイン、ジャロレー牛、羊、プレス地鶏、チーズ
■工業 金属、機械、食品加工



姉妹州 ブラジル連邦共和国 ミナス・ジェライス州

1973(昭和48)年7月25日締結

研磨・宝飾産業が盛んな本県に対し、同州は貴金属の原石供給地であることから姉妹締結を行いました。本県とは地球の反対側に位置し、中南米における国際交流活動推進の拠点となっています。古都オウロ・プレットやバンブーリャの近代建築群をはじめ、4つの世界遺産を有する観光地でもあります。

■人口 2,132万人（2024年）
■面積 58万7千km²
■州都 ペロオリゾンテ市
■農業 牧畜、コーヒー、大豆、サトウキビ、トウモロコシ
■工業 鉱業、製鉄、セメント、自動車



作者 Adelano Lázaro

姉妹道 大韓民国 忠清北道

1992(平成4)年3月27日締結

ライオンズクラブやロータリークラブなどの民間交流をきっかけに、甲府商工会議所と清州商工会議所の姉妹締結を経て、両県道の姉妹締結に至りました。国の中央に位置する利点に加え、高速鉄道や清州国際空港、工業団地などのインフラ整備により、未来成長産業の中心地として活気ある経済活動が展開されています。

■人口 159万人（2024年）
■面積 7千4百km²
■道都 清州市
■農業 ブドウ、高麗人参、畜産物加工品、唐辛子、リンゴ
■工業 半導体、電機電子、バイオテクノロジー、化学



姉妹省 ベトナム社会主義共和国 クアンビン省

2023(令和5)年9月19日締結

ベトナム政府訪問団の来県をきっかけに交流が始まり、令和5年に姉妹友好県省を締結しました。ベトナム国内でも有数の観光地であり、大小約300の鍾乳洞や原生林で形成される世界遺産のフォンニャケバ／国立公園が有名です。姉妹友好県省の締結を契機に、今後幅広い分野での交流が期待されています。

■人口 91万人（2022年）
■面積 8千km²
■省都 ドンホイ市
■農業 水稻、とうもろこし、さつまいも
■工業 風力・太陽光発電、セメント、冷凍魚、天然ゴム、合成ゴム

